



●不具合の原因となりますので、下記事項をお守りください。

■施工前のお願い

- 本製品は、コンクリート・モルタル下地への直張り用床材です。根太張りおよび木質パネル捨て張り、ALC下地への直張り施工はできません。
 - 本製品は住宅の上履き用ですので、店舗など重歩行用には使用しないでください。
 - トイレ、脱衣所には使用しないでください。
 - 下地の不陸は1mあたり3mm以下、部分的な不陸は深さ3mmで100cm²以下となるように、事前にならしモルタルなどで十分調整してください。部分的な凹凸や、スラブ面の波打ちは、床材施工後の外観に影響しますので、十分調整してください。セルフレベリング材は、メーカーの管理下で調合、混練されたスラリーであることを確認してください。
 - 下地が十分に乾燥していることを確認してください。(含水率10%以下)
下地は、打設後3週間以上たっており、窓開け換気が行われ室内の湿気が屋外に排出されていることを確認してください。同一打設時期で最も乾燥しにくいと思われる部分の下地表面を最低1ヶ所選定し、1m×1m程度のポリシートか新聞紙の四周を布テープ(ガムテープ)止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後下地材面が変色しないことを確認してください。表面が硬化していても内部が乾燥していない場合は、床鳴り、床材の突き上げ、波打ちなどの原因となります。接着不良の原因となりますので、細かいホコリや砂は掃除機などで清掃してください。粉ふきの多い場合は必要に応じてセルフレベリング材メーカーに善後処置を指示してください。
 - 施工前日に床材を開梱し、現場の環境に床材をなじませてください。
施工後に床材が急激に吸湿すると、床鳴り、床材の突き上げ、波打ちなどの原因となります。
- ※取付け前に仮並べして色・柄のバランスを確認してください。

■床暖房の仕上げ材として施工する場合

- この床材はRC住宅向け直張り工法タイプの防音床材です。床暖房下地パネルはRC住宅用の直張り工法に対応したものをご使用ください。
- 床暖房下地パネルの施工は、使用する下地パネルの施工要領にしたがい、パネルの破損、浮き、段差、床鳴りなどの不備がないようにしてください。
- 床材の継ぎ目と下地(床暖房パネル、周辺合板)の継ぎ目が同位置にならないようにしてください。段差や床鳴り、すき間の原因になります。
- 床材には釘などを打たないでください。床暖房パネルを破損するおそれがあります。

■施工時のお願い

- 施工場所の気温が低い場合(5℃以下)は、接着剤の接着力が十分に得られない場合がありますので、施工を控えてください。
- 床材どうし軽く突き合わせるようにしてください。
短辺目地部分は軽くすき間が開く(約0.3mm)程度とします。
足でけり込んだり、ゴムハンマーで無理にたたき込んだりしないでください。
- 幅木は床材施工後に取付けてください。また壁際の納めは、床材の伸びを吸収するため、2~3mm程度のすき間をあけて施工してください。
- 床材を長手方向に連続して5枚以上施工する場合は、必ず中間に見切り材を使用してください。見切り材は床材とのすき間を2~3mmあけて施工してください。
- 施工中および施工前後は、十分に換気してください。部屋を閉め切ったままで、室内の湿気が高い状態が続きますと、結露、カビその他の不具合の原因となります。

■施工用接着剤

- 施工には必ず有償部品の「LZZZZ056」または弊社指定の接着剤「コニシ KU-928R」(現場手配)をご使用ください。塗布量の目安は500g/m²です。指定以外のものを使用すると、不具合の原因になるおそれがあります。接着剤容器に記載された注意事項を事前によく読んでから施工してください。

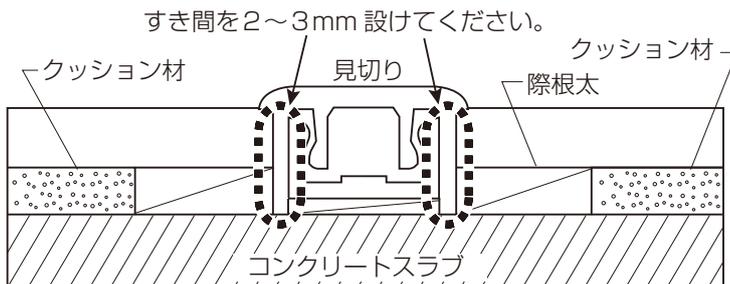
■施工順序

1 下地の点検・調整・清掃

下地が十分に乾燥し、平滑であることを確認してください。床下地表面を掃除機などで清掃してください。細かいホコリや砂などが残っていると、接着不良の原因となります。

2 床材の割付け・墨出し

- ①床材を部屋に仮並べし、全体のバランスを考慮して割付けてください。
- ②床材の張り始めは、形状が複雑など納めが困難な箇所を選んでください。
- ③納めを考慮し、張り始めの基準線を墨出しします。



お願い

※リビング入り口など、中間に市販の見切り材などを入れて、床材の伸びを吸収できるすき間を確保してください。玄関～廊下、リビングなど、床材の施工距離が長い場合、床材の伸びによる波打ち、突き上げ、床鳴りなどの原因となります。

3 際根太の施工

● 際根太を使用する部位

床材の施工端部が下記の部位となる場合には、必ず際根太を使用してください。使用しないと段差、すき間、床鳴りなどの原因となります。(玄関框、床見切、掃き出しサッシ、ドア枠、和室敷居など)

● 際根太を任意で使用する部位

壁際の幅木下については、際根太を使用しなくても構いません。以下の点にご注意のうえ、お施主さま、ゼネコンさま、施工業者さまで協議のうえ、仕様をお選びください。

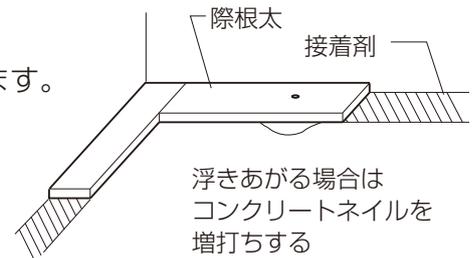
・ 際根太を使用する場合

壁際に家具を置いた際に、室内側に傾くことがあります。
家具の転倒防止器具などをご使用ください。

・ 際根太を使用しない場合

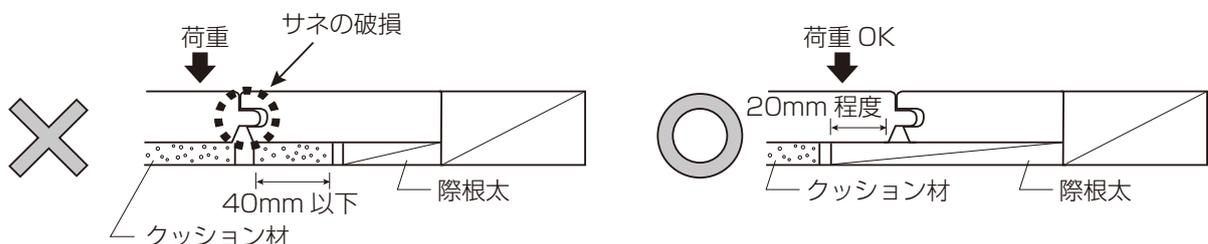
壁際を歩いた際や家具を置いた際に、幅木の下にすき間が生じます。

- ① 際根太として、同梱の当て板を20~50mm幅に切断します。
- ② 際根太を床施工用接着剤で床下地に固定します。
浮きのないように確実に固定してください。



※床材の長辺側に際根太を使用する場合、隣接する床材と際根太との間隔が40mm以下となると、歩行時の荷重などにより局部的な変形が発生し、サネが折れるおそれがあります。

このような場合には、隣の床材にも際根太が20mm程度かかるように、幅を調整してください。



4 張り始め

① 割り付けにしたいが、施工部分の幅に合うよう床材を切断します。

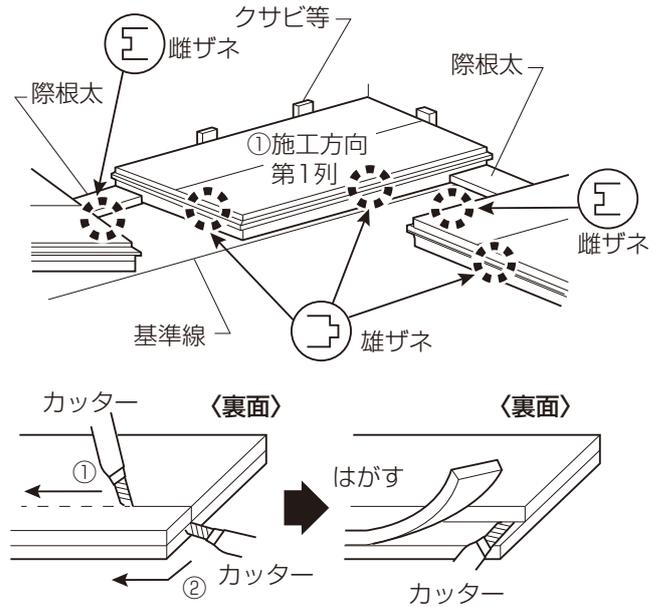
長辺雄ザネ側を基準線に合わせ、長辺雌ザネ側を切断してください。

次に施工部分の長さに合うように、短辺雌ザネ側を切断し、壁に向かって右側を基準として、雄ザネ側が手前となるよう、基準線に沿って施工します。この時、壁面とのすき間を3mm程度あけ、床材が動かないようクサビなどをすき間に入れてください。

(クサビは接着剤硬化後、取り除いてください)

② 際根太に相当する部分のクッション材を、カッターナイフで切除します。

③ 床材を仮置きして、サネのはめ合い、壁面とのすき間が適切であることを確認してください。



5 1列目の床材の施工

① 接着剤をスラブ面と際根太上に、接着剤に同梱のクシ目ゴテで塗布します。

※ 際根太を壁際の幅木下部に使用する場合、床材の伸縮吸収のため、際根太上には接着剤を塗布しないでください。

※ 接着剤が床材表面に付着した場合、速やかに家庭用ベンジンで拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。

② 塗布後、1列目の床材を基準線に合わせて施工します。接着剤容器に記載された可使用時間を必ず守って施工してください。

③ 床材の位置を調整し、床材を手で押さえて下地にしっかりなじませてください。浮きが生じている場合は、荷重をかけ硬化するまで固定してください。接着剤が硬化するまでの間、静置してください。接着剤硬化前に床材に力が加わると、接着不良や床鳴りの原因となります。

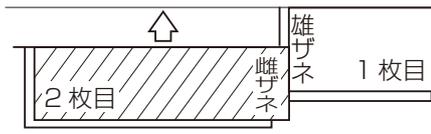
養生前に床上を歩き回ったり、床材が動くような力を加えないようご注意ください。

④ 2枚目の床材を施工する際は、1枚目の床材の雄ザネに、2枚目の床材の雌ザネを差込むようにして施工します。短辺のサネを合わせながら、長辺雄ザネ側が基準線に沿うように施工していきます。

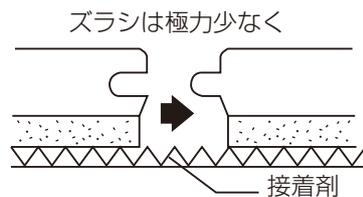
① スラブ面および際根太上に接着剤を塗布



② スラブ面にクシ目ゴテを立てて塗る



短辺側のサネを先に合わせる



※ 接着剤が床材木口部分にたまらないよう、次に施工する床材を、直前に施工した床材のできる限り近くに置き、横ずらしを最小限として施工してください。

接着剤が木口部分にたまった状態で硬化すると、床鳴りの原因となったり、施工後に床上を歩いた際に床の硬さむらを感じるおそれがあります。

⑤2列目以降は1列目と同様、下地に接着剤を塗布し、床材を施工していきます。

※短辺目地部分は、床材の伸びにより発生する不具合(目地部分の突き上げ、床全体の波打ち、床鳴りなど)を防止するため、わずかにすき間が残るように施工してください。

足でけり込んだり、ゴムハンマーで無理にたたき込むことは絶対にしないでください。



6 納まり

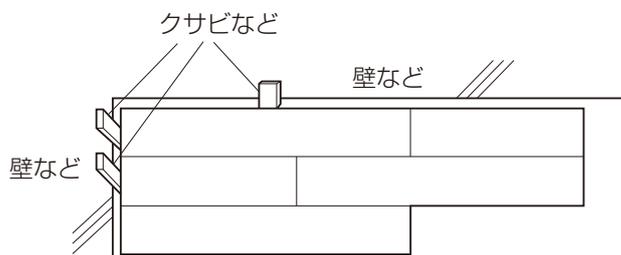
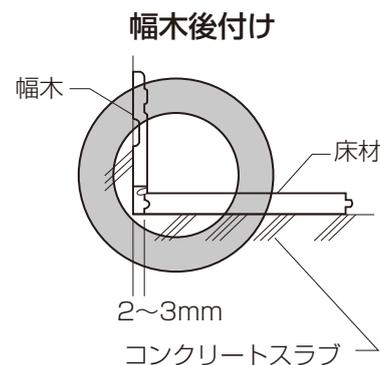
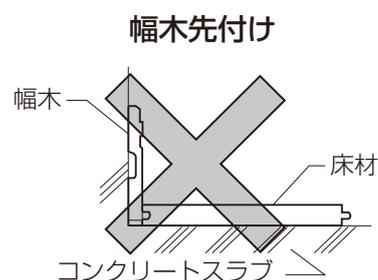
①最終列の床材を、壁とのすき間が2~3mmになるよう雄ザネ側を切断して寸法調整し、仮置きしてサネのはめ合い、壁際とのすき間が適切であることを確認してください。

②1列目と同様、下地に接着剤を塗布し、床材を施工します。

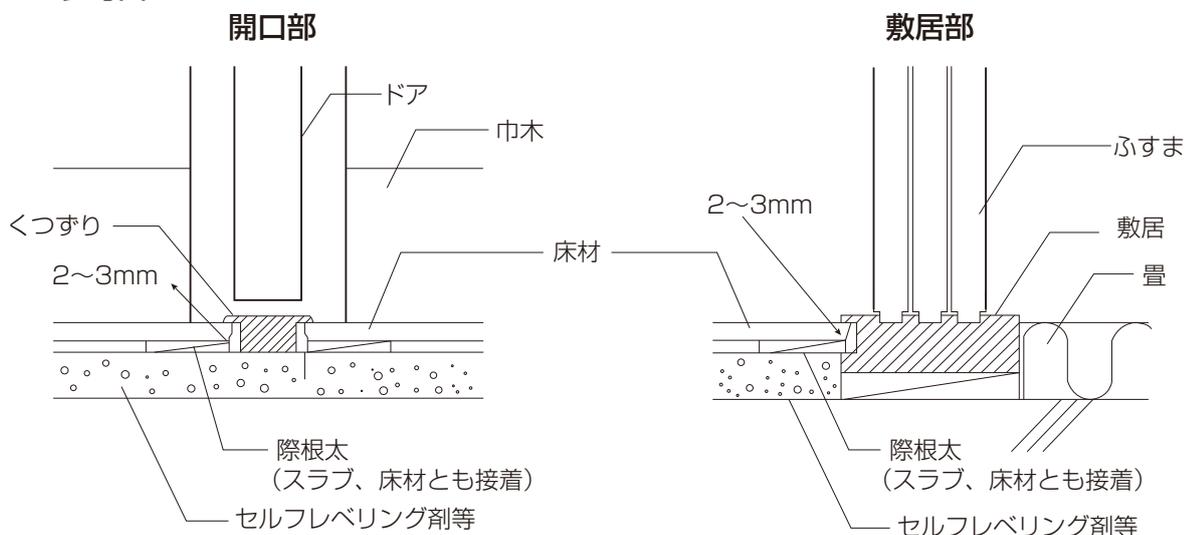
※際根太を壁際の幅木下部に使用する場合、床材の伸縮吸収のため、際根太上には接着剤を塗布しないでください。

接着剤が硬化するまで、壁とのすき間にクサビなどを入れてください。接着剤硬化後は、クサビを取り除いてください。

すき間部分は幅木(後付け施工)などで隠してください。



納まり参考図



施工後の床材の伸びや突き上げ対策として、開口部見切り材および敷居などにはシャクリ加工をし、床材とのすき間を確保してください。

7 養生・仕上げ

- 施工後は、木くず・砂・ゴミを完全に取除き、養生シートやベニヤなどですき間なく養生してください。その際、必ず別売りの養生テープ(LZZZZ004)をご使用ください。市販のガムテープなどは粘着力が強いため、表面材のハガレの原因となります。
- 施工中、雨の吹込みにより、床材の表面が濡れたままになると、フクレやソリの原因になります。濡れたまま放置することはお避けください。
- 汚れのひどいときは、固く絞ったぬれ雑巾で拭くようにしてください。その後、乾いた布で拭いてください。
- この床材は表面に汚れが付着しにくいよう、特殊処理を施していますのでワックスがけは必要ありません。お客さまのご都合でワックスがけをされる場合は、リンレイ社の「ハイテクフローリングコート」をご使用ください。他のワックスを使用すると、不具合の原因になります。
- ワックスがけをされますと、表面がワックスの性能になり、本来の性能を損なう場合があります。
- ワックスご使用の際は直接床にまかないでください。表面フクレや突き上げの原因になります。ワックスのまき塗りによる不具合は責任を負いかねますのでご了承ください。
- ワックスの使用方法を誤ると床材に異常をきたす場合がありますので、その他の使用方法についてはワックス容器記載の使用方法をよくお読みください。
- ワックス剥離剤および溶剤(特にシンナーなどトルエン・アセトン類を含むもの)は使用しないでください。床材を傷める原因となります。
- この床材は表面に特殊処理を施していますので、指定のワックス以外のコーティング処理を行った場合、コーティングがはがれる場合があります。指定のワックス以外のコーティング処理により生じた不具合については責任を負いかねますのでご了承ください。